かわら版 いわしろ

～集落支援員だより

「”日本で一番長持ちするリンドウ“。花屋さんの言葉が、今も日々の励みになっています」
～菅野良一さん

田沢地区は、県内有数のリンドウ栽培が盛んなことで知られています。ここで二十年以上前からリンドウ栽培を続けている菅野良一さんを訪問し、始めたきっかけや今までの軌跡、今後の抱負等をうかがいました。

▲菅野良一さんと奥さまのサエ子さん。「定年退職がなく、続けていけることが嬉しいです」

Q 花栽培を始めたきっかけは？

リンドウ栽培を始めたのは、平成九年です。当時、減反政策として「米の代わりになる作物に」と県からリンドウをすすめられました。岩代の中でも寒暖差の大きい田沢地区は、リンドウの花の発色が鮮やかになるので栽培に適しているらしく、阿武隈山系では私たちがリンドウ栽培の先駆けになりました。

▲茎の長さを揃えて束ね一晩水揚げ

Q 軌道にのるまでの軌跡は？

ところがいざ花の収穫が始まると、あてにしていた農協に卸すことができず、「もし売れなかったら…」という不安が的中。代わりに当時の岩代町役場の産業課にお世話になり、急遽「リンドウ祭り」を開催することに。「まず知ってもらうだけでもいい」という気持ちでした。

当時は近隣の農家三軒で始めたのですが、役場の人に買ってもらったり、郡山駅のフェアに参加して販売したりとただもう必死でしたね。二、三年後くらいでしょうか。試行錯誤を経て、尾瀬シリーズに品種を切り替えてからようやく売れるようになり、希望が見えてきました。

関東中心に卸していた時期もありましたが、現在は農協を通して全国に出荷しています。

Q 今後の抱負や夢は？

ここで栽培されたリンドウは、水を毎日取り替えると二週間くらい楽しめます。以前、関東の花屋さんに「日本で一番長持ちするリンドウ」と褒められたことがあり、その言葉が今も励みになっています。花栽培は、消毒が大変ですが、それ以外は決して重労働ではないので、体力が続く限り、いつまでも夫婦でやっていきたいです。

最盛期には十六軒あったリンドウ農家も現在は六軒に。夢は長年培ったノウハウを若手に伝えることです。「田沢のリンドウ」をたやさずに続けていきたいです。

▲リンドウの圃場での作業風景

6月～11月頃まで楽しめる リンドウ♡花カレンダー

品種改良により、現在はさまざまな種類のリンドウを長期間楽しめるそうです。菅野さんの農園で栽培しているリンドウを紹介します。

＜7月頃＞
★しなの超早生
★尾瀬 極早生
＜8月頃＞
★尾瀬 早生
★しなの早生
★しなの2号
★尾瀬のかがやき
★ホワイトベル（白い花）
＜9月頃＞
★真紅（赤い花）
★尾瀬の愛
＜10月～11月頃＞
★しなの4号
★深山秋（花びらが開いたタイプです）

※全国に出荷されていますが、地元では二本松市の「こらんしょ市」で購入することができます。

集落支援員・活動報告

日山キャンプ場のベンチを新たに製作しました！

「ベンチは皆さんに使っていただけるよう８脚を設置。キャンプ場からの雄大な景色を眺めに来てください」（集落支援員　安齋、桑原より）

去る7月29日、日山キャンプ場に新しいベンチを設置しました。今までのベンチの老朽化に伴い、集落支援員の安齋、桑原の2名が製作。木材は、小浜で木材加工業を営む㈱マルサンの三浦勝眞さんから提供いただきました。設置直後にベンチに座って山並みを見ながらゆったりくつろぐ人の姿も見られました。

小濱町隆盛の原点～歴史街道「塩の道」を往く

～令和四年度岩代公民館市民講座・岩代支所集落支援共同事業～

本紙の歴史シリーズ「塩の道」最終回でご案内しました通り、この秋「塩の道」をたどる市民講座を開催します。江戸時代、二本松藩と相馬藩を結び、塩や海産物の輸送に使われ、岩代・東和地域の隆盛の原点となった「奥州西海道」通称「塩の道」。当日は、午前中は座学で歴史を学び、午後はバスと徒歩で沿道に残る文化財を巡ります（詳細は「広報にほんまつ」をご覧ください）。

◀戸沢の字伏返。古い道標が残り、往時をしのばせる
▼塩の道の宿場町として栄えた白髭宿。本陣や問屋の面影が残る

○日時／九月三十日（金）
　午前十時～午後四時
○場所／午前：岩代公民館
　午後：バスで現地（川俣町山木屋～二本松市太田～小浜）史跡巡り
○対象者／市内在住・在勤の方
○定員／先着二十名
○受講料／九百円（昼食含む）
○申し込み先
◇岩代公民館　☎５５－２２６０
◇岩代支所地域振興課　☎５５－２－１１
右記どちらかの窓口へご連絡ください。

日山キャンプ場バンガロー再オープン！

地震の被害を受けた日山キャンプ場バンガローの修復工事を進めておりますが、一部のバンガローが再び利用できるようになりました。宿泊可能なのは、小３棟と大３棟。設備的にはシンプルながら見晴らしのよさと良心的な価格設定が自慢です。名目津温泉に入浴がてら、ご利用ください。

▲日山キャンプ場バンガロー。小1泊3,660円（5人まで）、大1泊7,330円（8人まで）

▲渡邊閑哉翁肖像
（村山翠圃画・渡邊輝夫氏蔵）

岩代の歴史シリーズ

「渡邊閑哉（わたなべかんさい）と安積疏水（あさかそすい）」①

今号から、郷土の偉人「渡邊閑哉」と安積疏水との関わりについて連載いたします。ご期待ください。

岩代小浜の歴史と文化を護る会
顧問　松本　誠一

閑哉は、寛政十（１７９８）年、下長折村名主渡辺家二代目、章の第四子として生まれ、幼少より学問を好み、儒学者渡邊竹窓の教えを受けた。

文化十四（１８１７）年、十九歳の若さで外木幡布沢村名主を拝命する。村の財政が破綻して、大きな借財をかかえ村民は疲弊している状況であったが、閑哉は村内をくまなく歩き、村民を励まし、自分も身を粉にして働き範を示した。

次第に村民も名主を見習い勤勉に働くようになり、借財の返済も予定よりも早く完済し、村は以前の明るさをとり戻した。

天保十（１８３９）年、閑哉四十一歳の時、二本松藩の命により伊勢参宮をはじめ、大和、京、大阪、四国、九州を見聞する。

天保十四（１８４３）年、四十五歳の時、下長折村名主に任命される。長年続いた天保の飢饉の影響で、村運営も容易でなかったのである。

※　閑哉は六十歳で隠居するまで名は儀右衛門であったが、この稿では、まぎらわしさを省くため、通して閑哉と表記した。